

平成31年度（令和元年度）「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

1. <学力面について（平均正答率や課題等について）>

【国語】

本校が、全国・大阪府平均正答率を上回る分類・区分はなかった。全国平均正答率より最も下回った分類・区分は『評価の観点』の「読む能力」で、全国平均を10.8%下回り、次いで「言語についての知識・理解・技能」で、全国平均を10.4%下回った。

最も課題となった「読む能力」では、文章の構成や展開を正確に読み取ったり、文章の展開に即して情報を整理したりすることが苦手な生徒が多いと考える。一方で「書く能力」に関しては、大阪府平均正答率との差が2.2%であり、最も平均正答率が高い分類・区分であった。また、問題形式では「記述式」の問題が最も高く、昨年度にはない傾向である。このことから、自分の考えを持って意見を書いたり、根拠を明確にして書いたりすることを得意としていることがうかがえ、成果が表れていると考えている。

【数学】

本校が、大阪府平均正答率を上回った問題は1問、全国を上回った問題はなかった。10%以上下回った問題が『関数』の領域であり、昨年度と比べても大阪府との平均正答率の差が大きかった。問題形式では「記述式」や「短答式」の問題が、全国・大阪府平均正答率を大きく下回っている。一方で「記述式」の問題に対して積極的に回答しているが、適切な説明（表現）ではないため不正解になっている生徒が多い。また、『評価の観点』の「技能」では、全国・大阪府平均正答率を10%以上下回っている。いわゆる基礎的な計算力が身につけていない、あるいは、式の意味を正確に読みとることが苦手な問題文を適切に読めていない生徒が多いと思われる。問題をしっかりと読み解く、自分の言葉で表現する力に課題がある。特に式の意味・合同条件・グラフの性質・資料の活用における用語を理解していないため、正解にいたらない生徒が多い。ただし、昨年度と比べて、「資料の活用」の領域では、大阪府平均正答率との差が小さくなっており、数学的用語を少しずつ理解してきていると考えている。

【英語】

本校が、全国・大阪府平均正答率を上回る分類・区分はなかった。領域別では、「聞くこと」「読むこと」は全国（大阪府）平均正答率を4%下回っているが、「書くこと」では1%ほど上回っている。また、「聞くこと」の平均正答率が一番高く、続いて「読むこと」、「書くこと」となっている。

大阪府・全国と比べると「聞く力」「読む力」が弱く、「書く力」はあまり差がなかった。特に、「話すこと」は全国より8.5%下回っており、「記述式/口述式」の「外国語表現の能力」の問題は、全国より12.3%下回っている。このことから、自分で考え、伝える力が弱いと考える。

「聞くこと」の領域では、単文ではなく対話やまとまりのある英文になると正答率が低くなっている。また、無解答率も高く問題を解く前からあきらめている生徒が多く見られる。「読むこと」の領域では、深く考えずに適当に解答している生徒が多い。一方で、「書くこと」の領域では、大阪府・全国平均正答率を上回っているものが6問ある。しかし、25語以上の英語で意見を書く問題では、25語以上の英文で書いていないなど、正答の条件を満たさず不正解となっている場合が見られた。授業の中で新出文法などを使い、自由に英作させていることで「書く力」が身につく、成果として表れていると考えている。

2. 【生活面や学習状況について】（生徒質問紙から）

※数字は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計

①規則正しい生活に関する調査

「毎朝朝食を食べている」→88.0%（昨年比+0.8%） 府90.2% 全国93.1%

「毎日同じくらいの時刻に寝ている」→69.5%（昨年比+1.5%） 府76.8% 全国78.0%

「毎日同じくらいの時刻に起きている」→88.6%（昨年比+3.8%） 府91.7% 全国92.8%

★ 朝食については学力との相関関係が指摘されており、きっちりと朝食を摂るなどの基本的な生活習慣を身につけることが重要です。

★ 規則正しい生活リズム（早寝・早起き・朝ごはん）を作ることが大切です。特に、スマホ等の使用が睡眠時間に影響を与えると指摘されており、使用時間や使い方を管理することが重要です。

☆ 朝食を含めた朝の時間を大切に、笑顔で子どもを送り出してあげてください。

☆ 家庭において、基本的な生活習慣の確立に向けてよろしく願います。

☆ スマホ等の使い方について、ご家庭でルールを設定をお願いします。

②家庭学習に関する調査

「平日の学校以外の学習時間が1時間以上（家庭教師・塾含む）」

→60.4%（昨年比-4.0%） 府68.2% 全国69.8%

「家で自分で計画を立てて勉強をしている」

→34.8%（昨年比-14.0%） 府46.4% 全国50.4%

「1日10分以上読書をする（教科書やマンガ・雑誌は除く）」

→40.2%（昨年比+5.0%） 府39.7% 全国50.4%

「全く読まない」→41.3%（昨年比-15.9%） 府44.8% 全国34.8%

★ 家庭で1時間以上学習する、自分で計画を立てて勉強する割合が昨年に比べ低くなっています。特に、自分で計画を立て、毎日少しの時間でも家庭で机に向かうことはとても大切です。本校では、およそ6割の人が自分で計画を立てて学習していません。これは、自分の課題を把握していない、何を学習すればよいかわからない、という生徒が多いということです。自分で自分の課題を見つけ計画をたてて学習することがとても重要です。明日の授業で学習するところを読んでおくだけでも効果があります。まずはそこから取り組みましょう。

★ 読書をする生徒は昨年より増加しており、また全く読書をしない生徒は昨年に比べ大幅に減少しています。文を読み解く、心情を思いやることはとても大切です。何よりも、読んで理解する力はすべての教科に必要です。時間があれば、読書をする習慣をつけましょう。

☆ 家庭学習の定着は、絶対に必要です。家で決まった時間、机に向かう習慣をつけることが重要です。

③学校生活に関する調査

「学校の規則を守っている」→95.1%（昨年比+1.5%） 府94.7% 全国96.2%

「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」

→93.5%（昨年比+0.7%） 府93.9% 全国95.1%

★ いじめはいけないと思っている生徒の割合は年々増加しています。あらゆる場面をとらえ、いじめを見逃すことなく、早期発見、早期解決に向けた取り組みが何よりも重要だと考えています。年間3回の教育相談、個人面談を最大限活用し、出てきた状況については全教職員で共有しています。日々の教育活動の中でも子どもの小さな変化を見のがさず、子どもの困り感などを受けとめるなど、迅速かつ適切な対応が行えるよう取り組んでいます。

★ 服装の乱れは、心の乱れと言われるように学校の規則を守ることは大切です。

☆ ご家庭でも、普段からお子様の様子に注意を払っていただき、少しでもお気づきの事、困っている事があれば、遠慮なく学校にご相談ください。

④自分に関する調査

「自分にはよいところがある」→69.1%（昨年比-1.7%） 府68.4% 全国74.1%

「将来の夢や目標を持っている」→66.9%（昨年比-5.5%） 府67.4% 全国70.4%

★ 昨年度と同様に約7割の生徒が「自分にはよいところがある」と思っています。学校では、生徒の良いところを見つけ、褒め、伸ばす教育を続けていきます。

★ 「夢や目標を持っている」については、昨年より減少しています。将来の夢や目標を持つことにより、今、「何が必要か」、「何をすればよいのか」が明らかになり、全ての生活が前向きになると考えています。

☆ ご家庭でも、将来のことを語り合うなど、子どもたちが夢や希望を持てる雰囲気作り、話し合う機会を作ってください。

⑤授業で

「授業で課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた」

→65.2%（昨年比+2.8%） 府70.9% 全国74.8%

「授業で自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した」

→46.2%（昨年比+8.6%） 府53.5% 全国55.8%

「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」

→69.5%（昨年比+12.3%） 府67.5% 全国72.8%

「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」

→88.0%（一昨年比+10.4%（昨年は調査なし）） 府80.8% 全国84.6%

「1, 2年生のとき受けた授業で、コンピュータなどのICTはどの程度使用しましたか」
→ほぼ毎日15.2% (府11.2% 全国7.0%) 週1回以上27.7% (府21.1% 全国23.6%) 「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか」
→76.7% 府75.3% 全国78.3%

★ 授業の中で、話し合う活動や発表する機会を作っている成果があらわれていると考えています。また、本校教職員は「分かるまで教える」ということを徹底しており、質問結果も府・全国を上回っています。本校のめざす「ねばり強く考え、記述・発表できる力をつける」に向け、さらなる取り組みをすすめていきます。
★ 昨年度2学期に全教室に大型スクリーンとプロジェクターが整備され、ICTを活用した授業を全教科で積極的に取り入れ、興味をひく授業になっていると考えています。何よりも、「もっと活用してほしい」という要望が生徒からあり、ICTをうまく活用した授業はとても効果があると考えています。
☆ 学校では、授業などいろいろな場面で話し合う活動、自分の意見を発表する活動を取り入れています。ご家庭でもたくさんの会話ができるような機会を作ってください。

3. 【課題解決に向けて】

≪国語科≫

1年生から、定期テストに記述問題や作文問題を出題している。授業でも、考えを書いたり表現したりする機会を意図的に設定している。今年度から、国語の授業以外に学校行事の感想文や作文を形式に基づいて書かせてきた。この結果「記述問題」の正答率が上がり、「無解答率」が下がるなどの成果が表れている。しかし、必要な情報を「読みとる」ことに課題があるため、文章の内容を正確に捉え、必要な情報を整理し、読みとる力を授業の中で育てていきたい。生徒質問紙の「国語の勉強は好きですか」や「国語の授業の内容はよくわかりますか」という質問の肯定的回答が全国・大阪府を上回っていることから、「国語」という教科に対する抵抗感が少なくなっていると考えられる。興味をひく授業を展開しながら、「読む能力」「書く能力」を高めていきたい。

≪数学科≫

問題を読み取る力、知識を活用する力を身につけさせたい。問題を的確に読み取り、自分の言葉で表現する力をつけることが肝要である。授業の中で、ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、自分の考えをまとめる、人の考えを聞いて深める授業を展開していく。基礎・基本の定着は欠かせないものであり、基本的な問題を毎時間取り組ませることにより、計算力を身につかせる。課題には、「なぜそうなるのか」を自分のこととして考え解決できるような発問や課題を提示していく。すべての学年で、質問しやすい雰囲気をつくり、最後までわかるような指導をめざしている。「数学の勉強は好きですか」(+14.1%)「数学の授業の内容はよくわかりますか」(+10.5%) のように、昨年と比べ数学に対する抵抗感が少なくなっているだけでなく、興味を持って取り組もうとする姿勢が見られる。今、自分で興味を持って課題を解決する力を身につけさせたい。

≪英語科≫

問題をしっかり読んでいない、聞いていない、深く考えていない、最初からあきらめていることが課題となっている。今後授業では、パターンプラクティスで単語や連語などの語彙をしっかりと覚えさせる。単文ではなく、まとまりのある英文を聞いて答える、読んで答える時間を設定し、考える問題を出題していく。その際、例を示すなどして何度も練習し、小テストや定期テストで同様の問題を出題し、自信を持って解答できるようにしていきたい。新出文法を用いた英作文を出題することで、新たな問題に慣れさせることが重要である、何よりも、必ずチェックを行い正しい知識を身につけさせる。ALTとの英会話の授業を活用して、ミスを恐れず英語(日常英語)で表現する力(話す、書く)を育てたい。

≪学習面を通して≫

すべての教科を通して、「読む力」「書く力」「伝える力」の定着に課題がある。朝学習では、落ち着いた雰囲気の中で取り組まれている。今年度より、1年生で視写活動、2年生で朝読書、3年生で問題演習を実施している。3年間継続して取り組むことで、文章を読み取る力・書く力、基礎・基本的な問題を解く力を身につけていくものと考えている。また授業においては、自分の考えを正しく相手に伝える力をつけるため、ペア討議、グループ討議、発表の機会を多く取り入れるよう意識している。すべての授業において、「すぐにあきらめることなくねばり強く課題について考え、人の考えをきちんと聞き、自分の考えを整理し、きちんと伝える」ということに重点をおいた授業をめざし、これからもより充実した教育活動に取り組んでいきたい。

≪全体を通して≫

生徒質問紙による調査では、「自分で考える」「人の意見を聞く」「自分の考えをまとめて人に伝える」などについて成果があらわれている。また、ICTを活用した導入等による授業展開は、生徒の意欲・関心を高め、学習に対する意識も変化しはじめている。今年度、子どもの実態(課題)、指導内容や方法について、全教科で徹底した分析を行い、全校統一の目標のもと、各教科で実施する具体的な取り組みを決定し、全教職員で共有、実践している。また、大阪教育大学 柳本教授の研究室と共同研究という形で、生徒の学力向上に向けて取り組みを始めた。(三中本年度学力向上目標「ねばり強く考え、記述・発表できる力をつけよう!」)

学力向上には家庭学習の定着が重要であり、その内容が大きな影響を及ぼすものと考えている。本校の課題である「家庭学習」及び「自分で計画を立てて勉強する」など、自学自習力が絶対に不可欠である。家庭での学習時間、自分で計画を立てて学習している生徒がともに減少していることから、大きな課題である。「家庭学習のてびき」を各家庭に配付しているが、その活用にも課題がある。学校では週に2回、放課後「ゆめ教室」を設定し、自学自習の場を開設している。また、テスト前には学年及び教科別質問会などの勉強会を実施している。授業の中でも、毎回、テスト勉強計画表を作成、提出させることにより自分で計画を立てて学習する力をつけている。

このように様々な取り組みを行う中で、分からないところをそのままにせず教師に質問できるようになってほしい。本校の教職員は「分かるまで教える」ことを徹底し、生徒も気軽に質問できる声かけを行っていきたい。

4. 【最後に】

今回の調査結果を踏まえ、本校における子どもたちの現状(学力面・生活面)を把握するとともに、成果と課題等について検証・研究し、今後の方策について取りまとめました。

今年度の全国学力・学習状況調査は、国語・数学・英語の3教科で4月に実施され、昨年度のような【A・B】区分ではなく、【A・B】が統一された教科調査となりました。

(※【A】主として知識に関する問題 【B】主として活用に関する問題)

昨年度との単純な比較はできませんが、国語・数学・英語のすべてにおいて、平均正答率は全国・府に比べて低く、昨年度と同じ結果でした。ただし、毎年6月に実施される大阪府チャレンジテストは、大阪府との差が縮まっており少しずつ成果はあらわれていると考えています。

今後も、課題解決に向けて、プロジェクター(ICT)の活用、自分の考えをまとめて書く、話し合い活動への参加、発表する場を積極的に取り入れるなど、主体的、対話的な深い学びへとつなげていきます。

一方で、子どもたちの学力向上・健やかな成長には、基本的な生活習慣の確立、家庭学習の定着は欠かせません。また、学力に大きな影響を与えていると言われているスマホ等の取り扱い、とても重要です。学校では、ネットの危険性を中心に講習会等を毎年実施していますが、スマホ(ネット)等におけるトラブルは後を絶ちません。スマホ・オンラインゲーム等については、家庭でのルール作りや管理がとても重要です。スマホ等の使い方・使用内容の確認・使用時間等、ご家庭でももう一度話し合っただき、子どもたちがそれらと上手に付き合っているようご協力をお願いします。

学校と家庭が連携を図りながら、子どもたちと向き合い、「わかりやすく伝える・子どもの想いを聴く(子どもが話せる環境づくり)」ことが何よりも大切です。子どもたちの健やかな成長のためにも、学校・家庭・地域がともに歩みながら取り組んでいきたいと思います。今後とも、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。